



# 富岡製糸場総合研究センターだより

No. 35

(2024年1月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

## 工女たちの年末年始

富岡製糸場が操業を開始した頃、工女たちは年末年始をどのように過ごしたのでしょうか。1873（明治6）年から翌年まで勤めた工女の回想録「富岡日記 和田英 著」には、このような記録があります。

「事業も十二月二十八日にしまいに成<sup>なりまし</sup>舛<sup>いよいよ</sup>て、弥々三十一日に成<sup>なりまし</sup>舛<sup>なりまし</sup>と、今夕はお年とりだがお<sup>まかない</sup>賄<sup>もうし</sup>では何を出すだろうと申て居ました。」つまり、12月28日に仕事を納め、大晦日は夕食の献立を楽しみにしていたのです。ところが、用意されていたのは「あじの干物に冷や飯と漬物」という代わり映えのしない献立で、これにがっかりした工女たちはご飯をろくに食べず部屋に戻り、皆ぶつぶつと話していたそうです。しかし、その後一升マスほどの大きさがある「おかちん（餅）」が工女1人あたり2枚ずつ配られ、「今から考<sup>かんがえ</sup>へ<sup>ます</sup>舛<sup>ますだけ</sup>と中々大した事」と年末の思い出を振り返っています。年明けには「羽根をつき、まりをつき、市中江散歩に参り遊<sup>び</sup>ひ」、「四日<sup>で</sup>※」からはじまる仕事についても「業は進み舛<sup>ますだけ</sup>丈<sup>で</sup>楽て面白く成<sup>なりまし</sup>舛<sup>いたし</sup>から、少しも退屈致<sup>いたし</sup>ません。」と綴っています。

※「休暇定メ方」によると年末年始の休暇は12月29日～1月7日であり、著者の覚え違いの可能性がある。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー  
はこちらから▼

